『輝け雪』のまち　ぬまた町

みんなの議会

2020年2月
第80号

おとなの仲間入り!

第4回定例会 …… 2

町政の全般にわたり14本の一般質問が行われ、28人の傍聴者が訪れました。

畑地議員の一般質問 …… 5

沼田町での高齢者の見守り対策としての配食サービスや安否確認について問う。

議会改革へ …… 9

議会改革特別委員会による先進地視察が行われ、芽室町と浦幌町を訪問しました。

令和元年 第4回 定例会

12月19～20日

12月19～20日、令和元年第4回定例会が開かれました。

地方公務員法と地方自治法の一部改正に伴う条例が改正されました。

近年、多様化する地方行政の中で、臨時・非常勤職員が占める割合が全国的に増加して来ています。その中で職員と変わらない業務を行っていても期末手当が支給できないなど、適正な任用が確保されていないことから、平成29年5月、国の法律の改正（総務省）により、沼田町でも臨時・非常勤職員が「会計年度任用職員」として、条例改正され、本年4月スタートの運びとなります。

臨時・非常勤職員の働き方改革

『会計年度任用職員スタート』総務省　令和2年4月施行

上程された条例

- 会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償
- 会計年度任用職員の給与
- 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理
- 町職員の給与に関する条例
- 沼田町印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正

会計年度任用職員とは？

非正規公務員（臨時・非常勤職員）が、期末手当や退職金支給等の対象となる「会計年度任用職員」に移行します。

◎一般会計補正予算

令和元年度予算に83万円を減額し、歳入歳出予算の総額を54億7269万円としました。

〈主な内容〉

- スコーレセンター費
  ほたる館修繕関係　450万円増
- 社会福祉総務費
  高齢者世帯等福祉灯油助成　188万円増

養護老人ホーム

- 事務費負担金　133万円増

特別養護老人ホーム

- 一般管理費　248万円増

後期高齢者医療特別会計

- 広域連合納付金　359万円減

請願・陳情

- 「国による妊産婦医療費助成制度創設」、「福祉医療制度の実施に伴う国保国庫負担金の削減措置廃止」を求める自治体意見書【賛成9】

妊産婦医療費助成制度とは？

社会的経済状況にかかわらず安心して子供を生み育てることができる環境が整備されるよう推進します。

町議会のホームページをご利用ください

沼田町ホームページの「部署一覧」の中に町議会のコーナーがあります。過去の議会広報誌や、平成28年以降の議会定例会と臨時会の議事録を見ることができます。現在の議会構成コーナーには各議員のプロフィールも掲載されています。パソコンだけでなくスマートフォンからも見ることができますので、ぜひ一度ご利用ください。そして皆様からの感想、ご意見をお待ちしています。

「沼田町議会」で検索！

スマートフォンはこちらから→

表紙の写真

1月12日ゆめっくるホールにて23名の二十歳の門出を祝いました。

第４回定例議会において初めてスクリーンを使用した一般質問が行われました。費用をかけないで行えるよう試験的に設置したスクリーンなので見えづらいとの意見も多くいただきました。

今後の定例会において傍聴者へ理解が進むように検討をしていきます。

傍聴者からの評価としては

- 取組は良いことだと思う。
- 小さな字が見えない、画面が不鮮明なのと、傍聴席からは見えづらいので、やるのであれば設置場所等を工夫してやるべき。

などのご意見をいただきました。

スクリーンに図を写して一般質問をする

今回の定例議会の傍聴者は、28名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしています。

第7回 臨時会 令和元年12月2日

町職員の給与に関する条例の改正人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に沿って、職員給与・特別職給与・議員報酬の条例を一部改正しました。（住宅手当の一部改正含）

第1回 臨時会 令和2年1月10日

◎教育費補正予算

- 中学校改修費用　１９５万円

中学校の一教室を改修し病弱生徒の通学に対応します。

表彰 ～功績を讃えて～

空知町村議会議長会（佐々木康宏会長）より、地方自治振興発展の功績に対し表彰状が送られました。

前議長の渡邊敏昭氏

前副議長の高田勲氏

町長への一般質問

問 高齢者の見守り対策について

答 在宅介護サービスの充実を図る

畑地 誉 議員

問 高齢者世帯における介護の実態や見守りサポートを行政としてどのように分析し、対策を講じているのか。また、社会福祉協議会などが行う事業の概要と行政との連携の在り方を聞きたい。

二つ目に、地域の高齢者の見守り安否確認も含めた配食サービスを拡充し、関係部署と連携を強めていただきたい。特に農村地域や独居の高齢者に対し、見守りの体制を構築していただきたいが、行政が主体となって実施した場合、どのような問題点があるのか聞きたい。

三つ目に、見守りには訪問型とセンサーを備えた機器やカメラによる監視、宅配型などあるが、町として安否確認対策に繋がる事業を検討しているか聞きたい。

答 今後の在宅サービスの中で、ボランティア団体の在り方、人材の確保、センター機能の充実が課題と捉えています。

現在、町としては高齢者における「ボランティアポイント制度」を実証しており、和風園や旭寿園、デイサービスなどの活動支援を行っていただいています。

また、高齢者が明るく元気に安心して生活できるよう、高齢者の見守りサポート事業「ハートフルぬまた」は、活動を迅速に行えるよう、町内会や各種団体が連携し、支援を必要とする方々の台帳を毎年整備し情報共有を行っています。

配食サービスについては、訪問介護などの在宅介護を主体的に行っている社会福祉協議会が実施することが理想であると考えています。

日常生活の不安解消と人命の安全を確保するために、緊急通報システムを対象のご家庭に設置していますが、ICT技術の活用も視野に入れ、新システムの導入を検討していきたい。

社会福祉協議会の福祉車両

問 今後のコンパクトエコタウン構想

答 財源確保と民間資本の活用も検討

鵜野 範之 議員

問 この構想を進めるにあたり平成25年に施設整備計画を立てて町民に説明を行ったところですが、一期工事から三期工事まで計画し、概ね令和4年までに完了する10年プランだったと思います。

平成29年に一期工事として町立病院やデイサービスセンターを含む安心センターが完成しています。

二期目以降は小規模多機能型の福祉施設、高齢者住宅や子育て支援住宅に周辺整備工事を計画していました。

安心センター建設から2年が経過する中、計画も進んでいませんし、次の一歩も見えてきていません。

構想自体が町民との合意の中で計画するということで進めてきた以上は、住民への説明が必要と考えます。

高齢化率が高まる中、高齢者住宅などの福祉施設は早急に実施しなければならないと思いますが、横山町政として、この構想をどのように進めていくのか考えを聞きたい。

答 旭寿園や和風園などは福祉施設との関連性も多いことから、慎重かつ丁寧に検討している段階ですが、高齢者住宅は早急に整備が必要でありますので、新年度予算で提案したいと考えています。

スケジュールの提案は新年度に全体計画を踏まえて提示をしていきたい。

コンパクトエコタウン構想は継続して実施していきたいが、設計を行ったから建設するということではなく、全部を実施できるかも含め、皆様とともに議論を交わしながら整理をしていきたい。

一期工事完了の安心センター

問 ほたる館運営の将来像を問う
答 町民の意見を踏まえて検討していきたい

高田 勲
議員

問 ほたる館を将来的にどのように運営していこうと考えているのか。

今、施設の劣化、老朽化が進む中で、シダックスさんは、厳しい経済環境の中で健闘しています。そろそろ大規模改修の時期かと思います。近隣では改修をして売上や集客向上を果たしている施設もあります。ただ改修には10数億円かかり、規模を含め議論し、残すか、改修するか、やめるかの決断が求められます。

そのためには、公共施設の管理に関するプロジェクトチームで、町民を巻き込んだ議論をすることが大切であり、メリットデメリットを町民に提示し、議論し、意見を統一して進む必要があります。

ほたる館の去年の町の支出が一億7千万円以上かかっていることを知ってもらうためにも町長の考えを聞きたい。

ほたる館は今年で26年目であり、配管の老朽化を中心とした経年劣化に修理費が増えています。

専任の営業部長を配置し、売上、宿泊について改善傾向がありますが、宴会は厳しい状況です。しかし、町民の憩いと健康増進の場であるこの施設は無くすことはできません。また、観光資源としての位置付けが強く、源泉は百年以上前に発見され、あの場所、環境だからこそ全国から人を呼べる地域の稼ぐ力の一つです。無くしてはならない施設あり、「施設のあり方プロジェクト」で検討していきたい。

町民憩いの場「ほたる館」

問 JR利用促進事業の実行を
答 JRとの協議を進めたい

久保 元宏
議員

問 JRここからが利用促進事業の本番です。留萌本線対策室の効果的な政策は何か。また数値目標があるのか。

二つ目に駅舎の空洞化が目立ちます。近隣では、イベント事業や環境整備を行っています。駅が交流人口の拠点と思うがどうか。

三つ目はJRの切符を町内の商店で購入できるようになれば、売上向上と各商店の利用の機会創出の相乗効果に結びつくと思うがどうか。

四つ目にあんどんのフィナーレの一番魅力的な時間帯に運行する列車がなくなりました。その列車の復活を要望することによってJRも売上が伸び、観光客にも喜ばれる、観光創出にもなる。これがJR存続に取り組むまちづくりではないかと思い提案します。

広域化志向で、効果的な利用促進事業の展開ができますよう求めます。

数値目標を上げることは、利用促進しかないと考えますが、町民のマイレール意識の向上が大切です。町の資源を利用したツアー、小学生や子育て世代向けの事業の実施。駅周辺の美化、新たな利用客の発掘。上下分離方式についても世論の応援をいただき、国や道に支援を求めたい。

二つ目に掲示板の有効利用や駅舎の活用についても現在JRとの協議が整い次第、積極的に進めたい。

三つ目に現在商工会が販売できる契約を結んでいると確認したところです。現場取り扱いをしている方の売上に影響するので慎重に対応したい。

四つ目に夜高あんどん列車復活についてはJRと協議している最中ですのでご理解をいただきたい。

駅で切符を販売している時間（平日）

7:20-8:55　9:50-11:25　12:35-13:40

問 沼田町の若者から胃がんをなくすには
答 将来効果が確立されれば検討をしていきたい

篠原　暁
議員

問 男性においてかかる率が上昇している胃がんは、ピロリ菌への感染が原因とされている。若いうちにピロリ菌への感染を検査し除菌を行えば、確実に胃がんを抑えることができるといわれている。

高校生では進学先が分かれるため、中学生でこの検査と除菌を実施する自治体が道内でも3割になる。高校生までの医療費無料化に取り組む沼田町でも実施する考えはないか聞きたい。

ピロリ菌の除菌に際して、適正に薬を服用しなければ薬が効かなくなる「薬剤耐性菌」に変わってしまう危険性が指摘されています。安全性が確立されていないと言われている状況では、成長発達途中である中学生に実施することは考えられません。実施している自治体では、近くに推奨する医師と医療機関があるところがほとんどで、北空知にはありません。そういう医療機関の状況も見ながら、今後検討をしていきたいと思います。

ピロリ菌の電子顕微鏡写真（ウィキペディアより）

篠原議員のそのほかの質問

問 留萌本線存続に向けて沿線自治体が協力するべきでは

答 沿線自治体に路線の継続を訴えつつ新たな手法を探る

問 介護現場の状況を改善するためには何が必要か

答 労働環境改善や外国人材活用も検討する

問 人口減少問題について
答 人口減少時代を生き抜く強い町づくりを進める

伊藤　淳
議員

問 沼田町の人口は今まさに3千人を切るような状態になっている。この3千人をなんとしても守っていくというような強いメッセージを、町民に向けて発信してほしい。

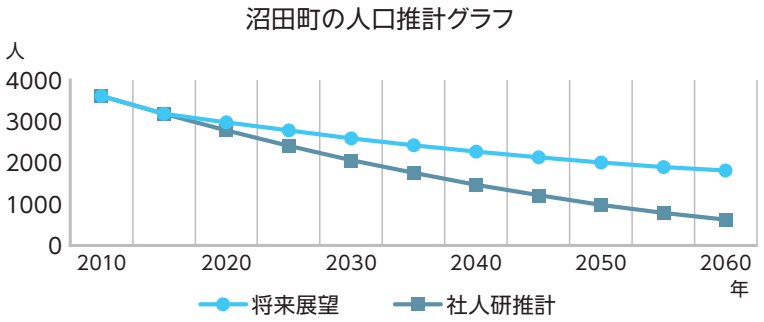
そういった人口目標を意識しながら基本計画に盛り込んでいけるよう、検証内容を町民と共有することが重要だと思う。

人口減少対策は雇用に直結すると考える。そのためには、以前からある食料備蓄基地構想の実現が必要だと思うが、町長の考えを聞きたい。

人口の現状は、想定していたよりもかなり下回っていますが、様々な施策により2年連続で人口の社会増を達成できました。人口3千人確保についても、皆さまのお力をお借りしながら、なんとしても取り組んで参りたいと思います。

第6次総合計画の重点戦略として、雇用の場の確保となる企業誘致を展開しているところですが、食料備蓄基地構想を実現させるためには、その前提として農産物の加工産業を誘致する必要があると考えます。

今後のためには一つは働く場を作る、外貨を稼ぐ、さらには人材の誘致を進めることが持続可能な環境を作るための絶対条件であると考えます。まだ仮にですが、関係人口拡大緊急プロジェクトのようなもので町民の意識を高め、人口減少時代を乗り切っていきたいと考えています。



問 町民体育祭の考え方を聞きたい
答 体育祭の継続をしていきたい

上野　敏夫
議員

吉田教育長

町民体育祭は、現在全町民が集まれる唯一のスポーツイベントです。終了後の反省会は、町内会の交流の場としての色合いも強いので、体育祭は継続していきたいと考えます。

来年度の意向を聞いた中では、8チーム中6チームは参加をしても良いということでした。2チームについては、新たな行政区長が決まり次第ご相談させていただき、希望者が全員参加できる体制を整えていきたいので、ご理解ください。

問 町民体育祭は、現在様々な課題を抱えており、参加しづらい状況になっている。この方向を変え、全行政区が参加できる体制を早急に整え、町民全員が参加できる内容にするべきと考える。

例えば、町民宝くじを作ったり、子どもからお年寄りまで楽しめる行事にするというのはどうか。さらに、町民アンケートの結果にも出ているが、8チームの行政区が参加できる内容をどう考えているか聞きたい。

多くの町民が参加できる体育祭を

上野議員のそのほかの質問

問 化石の研究体制を強化してはどうか

答 町外の研究者に協力をいただく

問 赤ちゃん世帯へゴミ袋無料配布を
答 安心できる支援策を検討する

長野　時敏
議員

問 子育て世帯では、赤ちゃんのおむつはほぼ紙おむつであり、その処理にかかるゴミ袋の費用負担は大きい。このゴミ袋無料配布は他の自治体でも実施している事例がある。必要な経費は少なく、出生時に3年分を一度に手渡せば、職員の手間も少ない。実際に子育て世帯からは、一度に3年分もらえるのは大変うれしいという声もある。

ゴミ袋だけで子育て日本一が実現するわけではないが、この声をどう受け止めるのか、町長の考えを聞きたい。

ゴミ袋の値段はあくまでもゴミ処理費用の一部ということをご理解ください。3年分を一度に手渡せば、確かに渡す側の手間はかかりませんが、それが本当の意味で子育て世帯に喜ばれる施策なのかとも思います。

課題は他にもたくさんあります。安心して子育てをしていただける環境を作るために、優先すべきは何かということを内部で検討しています。その上で来年度予算の中で改めて子育て日本一を目指す視点での支援策を提案したいと思います。

子育てをがんばるお母さん

長野議員のそのほかの質問

問 空き家登録制度のさらなる充実を

答 ワンストップでていねいに対応していきたい

問 高規格道路に「高速るもい号バス停」の設置を

答 優先する課題に取り組んでいきたい

問 住みやすい町づくりを
答 現在検討中で具体策はこれからしたい

大沼 恒雄
議員

問 一般行政報告にある新規就農者等支援体制、農作業受託等専門会社の設立はどうなっているのか。

ＪＲ留萌線の利用促進策について、事務レベルや首長会議でどのような話し合いがされているのか。

抗菌薬が効かない多剤耐性菌で、年間8千人以上が亡くなっており、普及啓発が必要だと思う。

地球温暖化対策として、温室効果ガス排出削減のために町としてどのような手を打っているのか。

以上町長の考えを聞きたい。

新規就農者支援及び農作業受託等専門会社については、ＪＡ、土地改良区、普及センター、町職員による企画班会議で現在検討中の段階です。

留萌線利用促進策については、沿線自治体がそれぞれ対策しており、それとは別に、北空知・南留萌子どもパスポート事業で駅も対象施設になっています。

抗菌薬については、町の判断だけでできないものは国や道からの周知、指示によって対応していきます。

環境問題は、雪冷房をはじめ防犯灯のＬＥＤ化、小学校の太陽光発電、医師住宅の太陽光パネルなどで取り組んでいます。

医師住宅の太陽光発電パネル

産業福祉常任委員会

視察報告（11月１日）
赤平市住友赤平炭鉱跡

挨拶をする上野委員長

観光による交流人口増加をテーマとして、赤平市にある旧炭鉱施設の利用状況を調査してきました。

炭鉱があった時代には人口６万人だった赤平市も現在は１万人弱となっています。その当時を語る貴重な施設が、住友赤平炭鉱から赤平市に無償譲渡されました。その炭鉱遺産が、令和元年５月に日本遺産「炭鉄港」の構成要素として認定されました。

施設内にある「立坑やぐら」と呼ばれるエレベーターは、地下650mまであっという間に鉱員を送り石炭も引き上げていました。平成29年度には立坑のとなりに観光案内の拠点となるガイダンス施設が建設され、入館者数は7000人を超えています。元炭鉱マンのガイド付き見学ツアーは2800人で、その後も利用者は増加しているようです。

この施設を中心として、観光（交流）人口の増加につながっています。また、この立坑やぐらが昨年公開されたアニメ映画「ぼくらの７日間戦争」のモチーフになっていて、今後映画ファンへの波及効果にも期待されています。

ガイドの案内で立坑やぐら内を見学する委員たち

議会改革特別委員会

視察報告

沼田町議会では平成17年に議会活動等調査特別委員会において議員定数減と議会活動活性化の基本的内容が検討されています。

また、平成23年には議長から議会改革について検討するように諮問を受け、議会運営委員会において意見を取りまとめ、全員協議会に付議して承認されています。

以前より答申された議会改革について検証を行い、住民から求められる議会の使命を確認し、魅力ある議会を構築することを目的として掲げ、令和元年6月、鵜野副議長を委員長とし「議会改革特別委員会」を設置しました。

早稲田大学マニフェスト研究会の議会改革度調査平成30年のランキングにおいて、全国1447の参加自治体のうち沼田町は992位という結果であり、各団体との懇話会でご意見いただいたように、議会改革の先進地として、全国1位の芽室町と67位の浦幌町にて視察を行いました。

議会でのタブレット活用例

視察先で挨拶する鵜野委員長

浦幌町

11月27日

議会の活性化の総括として「浦幌町議会政策形成マネジメントサイクル」として展開し、議会の活性化を図り、住民福祉の増進に繋げるものでした。

平成25年　議会基本条例を制定
平成30年　議会ＢＣＰ（業務継続計画）災害時の議員の役割や行動の指針

議員のなり手不足対策や報告会、フォーラムの開催など精力的に活動し、町民との対話を重視するとともに、通年議会や議員モニター制度など様々な改革を実施されていました。

浦幌町議場にて

芽室町

11月26日

平成25年　議会基本条例を制定

①政治倫理条例制定　②議会会議条例制定　③通年議会制スタート　④文書質問制度スタート　⑤傍聴者への配慮　⑥議会改革諮問会議　⑦議会だより通年発行

議会のインターネット中継やペーパーレスに対応するタブレットの導入、ホームページの充実など積極的な情報公開を推進。

町民によって構成される議員モニター制度や有識者による議会サポーター制度、公聴会など改革はその都度更新されていました。

芽室町議場にて

みんなの広場

みなさんのために

町立沼田厚生クリニック　内科主任部長　兼村（かねむら）　俊範（としのり）

昨年４月に東京より赴任して参りました。今まで、大学病院での四半世紀にわたる呼吸器内科に加えて、心療内科、漢方医学、がん治療、またがん専門病院での緩和ケアなどの診療にあたり、新宿区を中心とした在宅医療でより患者さんの近くで診療を行ってきました。この度、縁あって、この沼田町に来て、前任者の金谷医師が長年にわたり築かれていらした内科部門を引き継ぐことになりました。

昨年夏には、道東以外の観光地をすべて一人で車でまわり、半年で15000㎞走りました。今年の冬は雪が少ないようですが、小学生時代に岩見沢に住んでいたことや、大学時代は山形在住だったこともあり、雪に埋もれる生活にも不安はありません。

ようやく仕事や街にも慣れてきましたが、これから、町民の皆さまの健康を維持し、いつまでも楽しく生活ができますよう、院長とともに、支援していきたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

ぬまた地域医療コミュニティカフェ「あったまーる」の皆さんと

今年の思いは この一文字

小峯議長

鵜野副議長

大沼議員

高田議員

上野議員

久保議員

長野議員

篠原議員

畑地議員

伊藤議員

希伝心慈犬健　浅野局長

子挑声続和報　沼本書記

あとがき

例年になく異常なほど雪の少ない冬が続いています。家庭の雪ハネが少なくて済むのは助かりますが、除雪関係者の収入減が心配されているようです。

少雪の原因は海水温度の上昇がその一つとされています。イカやサンマの記録的不漁もそれにつながっています。その根本が地球温暖化に由来するとすれば、そこを解決しない限り「少雪」も「猛暑」も異常気象ではなく、今後当たり前の現象になってしまうかもしれません。とはいえ、家庭でもできる温暖化対策は、暖房温度を抑えることぐらいかもしれません。

今後、今年の農作物に影響がない程度に雪も降ってくれることを願います。

広報特別委員
長野時敏　篠原　暁
上野敏夫　畑地　誉
伊藤　淳

2020年2月19日発行　発行者　沼田町議会　〒078-2202　北海道雨竜郡沼田町　TEL0164-35-2117